

拡大する民生用加速度センサの最新動向 2006-2007

◆調査要綱

矢野経済研究所では、カーナビゲーションやノート PC、携帯電話など様々な需要分野で採用が期待されている民生用加速度センサを取り上げ、ワールドワイドにおける市場規模、搭載製品、メーカーシェア、技術動向などを明らかにし、今後の民生用加速度センサの可能性を分析した。

調査対象先：民生用加速度センサを製品化している電子部品メーカー、半導体メーカー（12社）

調査期間：2007年1月～2007年3月

調査方法：参入各社への直接面談取材を中心に各種統計資料・文献等による情報収集および分析を実施。

◆調査結果サマリー

- 2軸と3軸タイプを合わせた民生用加速度センサの2006年度における総市場規模は、数量ベースは前年度比224.7%増の1億1,560万個、金額ベースは前年度比139.5%増の173億3,000万円に達する。2000年度からの年平均成長率は数量ベース77.5%、金額ベース49.5%となる。
- 民生用2軸加速度センサのワールドワイドにおける2006年度市場規模は、中国における携帯電話への採用が進み、数量ベースは3,870万個、金額ベースは42億5,700万円に拡大。
- 民生用3軸加速度センサのワールドワイドにおける2006年度市場規模は、ゲームコントローラに搭載された事が大きく影響し、数量ベースは7,690万個、金額ベースは130億7,300万円となる。数量・金額ベースで、3軸加速度センサが2軸加速度センサの市場規模を抜く。

◆資料体裁

発刊日：2007年03月26日

体裁：A4判101頁。

定価：136,500円（本体価格：130,000円、消費税等：6,500円）

株式会社 矢野経済研究所

所在地：東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長：水越 孝

設立：1958年3月 年間レポート発刊：約250タイトル URL：<http://www.yano.co.jp/>

この件に関するお問い合わせは TEL 03-5371-6912 E-mail: press@yano.co.jp

(株)矢野経済研究所 管理本部 広報室

中村 理美

(株)矢野経済研究所 インダストリー・テクノロジー

池山 智也

調査内容の解説

<総市場動向>

2軸と3軸タイプを合計した民生用加速度センサの総市場規模は、前年度比224.7%増の1億1,560万個に達し、金額ベースは139.5%増の173億3,000万円となる。2000年度から2006年度までの年平均成長率は数量ベース77.5%、金額ベース49.5%となる。

2軸、3軸タイプともにコストダウンが進んでいるが、数量ベースの伸びが堅調に推移していることから、出荷数量拡大がコストダウンの影響を低下させる結果となっている。

3軸加速度センサの市場がゲームコントローラ向けを中心に急激に拡大した事により、2006年度は金額ベースだけでなく、数量ベースについても2軸加速度センサの市場規模を上回っている。総市場に占める3軸加速度センサの割合は、数量ベース66.5%、金額ベースは75.4%となる。

携帯電話向けの採用がまだ本格化していない事を考えると、今後も民生用加速度センサは引き続き拡大傾向が続くと予測される。

<2軸加速度センサの採用動向>

2軸加速度センサの2006年度市場規模は、数量ベース3,870万個、金額ベース42億5,700万円となり、2005年度から引き続き拡大基調にある。

主な増加要因としては、カーナビゲーションやLCDプロジェクタなどの既存の需要分野が堅調に推移した事、携帯電話向けが好調だった事が挙げられる。特に中国市場においては、2軸加速度センサを搭載した携帯電話の販売が好調であり、中国の携帯電話メーカーでは採用機種を増やす傾向にある。主にユーザーインターフェイス、ゲーム操作などに使われており、今後もアジア市場を中心に2軸加速度センサの市場は拡大すると予測される。

<3軸加速度センサの採用動向>

3軸加速度センサの市場規模は、数量ベース7,690万個、金額ベース130億7,300万円に達する。

2005年に市場が本格的に立ち上がったばかりの3軸加速度センサであるが、2006年末に発売された任天堂Wii、SONYのPlay Station[®]3のコントローラに3軸加速度センサが搭載された事が急激に市場を拡大させる要因となっている。弊社の推定では、2006年度の出荷数量の中で50%近くがゲームコントローラ向けであると考えられる。

また、DVC（デジタルビデオカメラ）やノートPCについても、ハードディスクの保護用途で採用メーカーが増えており、これらも市場を押し上げる要因の一つとなっている。

携帯電話向けについては、一部メーカーで搭載機種が販売されたが、大きく拡大するには至らなかった。小型・薄型化が進んだ為にサイズ面での問題は無いが、センサを利用したキラアアプリケーションが見つからない事が採用を遅らせている。ただし、海外を中心に搭載に積極的なメーカーはいくつかあり、2007年度以降市場が拡大する可能性はある。

表1 民生用加速度センサの市場規模推移 (2000年度～2006年度 ワールドワイド)

(単位: 万個/百万円)

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	CGR
数量	219	234	285	465	1,190	3,560	11,560	
前年比	105.3%	106.8%	121.8%	163.2%	255.9%	299.2%	324.7%	77.5%
金額	1,095	1,053	1,282	1,302	2,584	7,236	17,330	
前年比	105.3%	96.2%	121.7%	101.6%	198.5%	280.0%	239.5%	49.5%

※ CGR (年平均成長率)

※ 矢野経済研究所推計

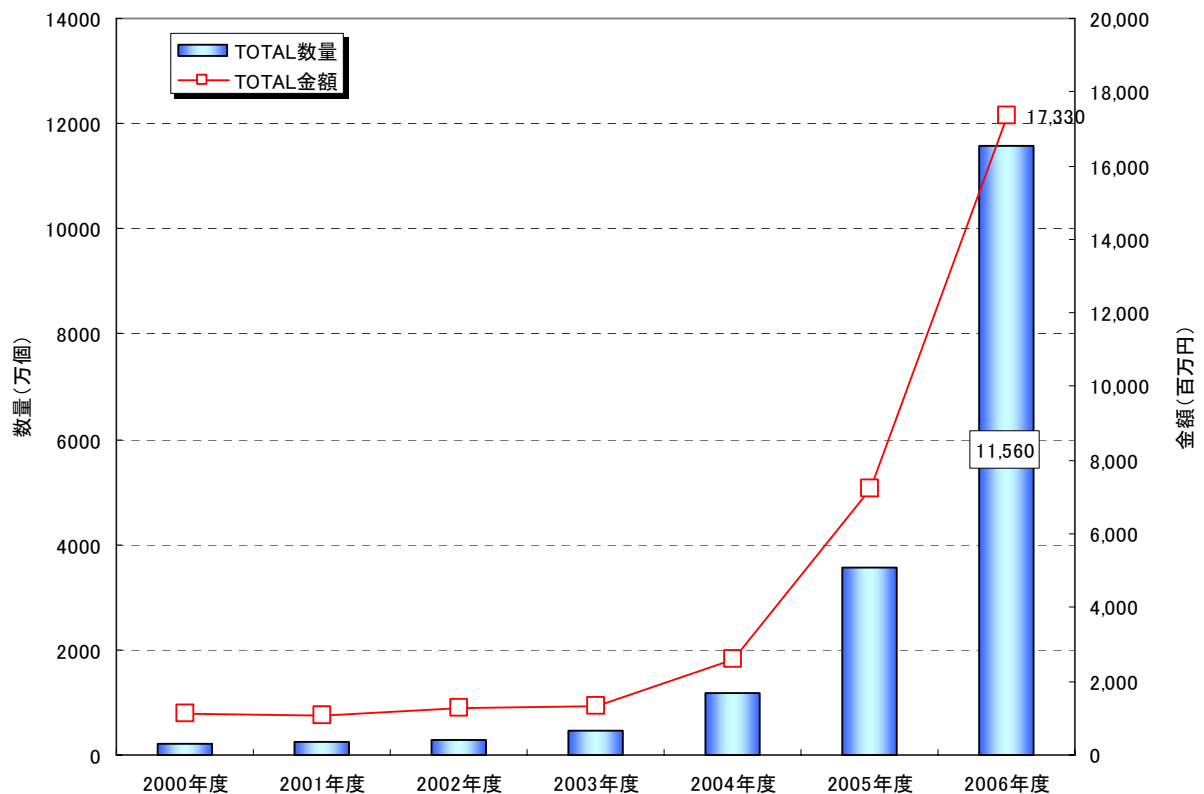
表2 民生用加速度センサの軸別構成比 (2006年度 ワールドワイド)

(単位: 万個/百万円)

	数量	構成比		金額	構成比
3軸タイプ	7,690	66.5%	3軸タイプ	13,073	75.4%
2軸タイプ	3,870	33.5%	2軸タイプ	4,257	24.6%
TOTAL	11,560	100.0%	TOTAL	17,330	100.0%

※ 矢野経済研究所推計

図1 民生用加速度センサの出荷数量推移 (2000年度～2006年度実績 ワールドワイド)



※ 矢野経済研究所推計